

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第21号（令和5年9月6日）

## 運動会① ～練習がはじまりました～

9月4日（月）から運動会練習が本格的に始まりました。ただ毎日の気温がまだまだ高く、それに伴って運動場のWBGT値（熱中症指数）が高い日はエアコンの効く多目的ホールや各教室で休憩や水分補給をしながら練習をしています。（9/6は初めて運動場でできました）

### 【9月5日の様子】



外は熱中症危険レベルのため運動禁止。多目的ホールにも熱中症指数計を設置し運動ができるかどうかを常に確認しています。

#### 1・2年生はダンス練習！

音楽をブロックごとに分け、振り付けを確認していました。

みんな、よく覚えていて、感心しました。



#### 3・4年生はそれぞれの教室で【うらじゃ】の練習！

どちらのクラスも楽しそうにノリノリで踊っていました。そんな姿を見て、とても楽しく嬉しい気持ちになりました。



#### 5・6年生はリレーの順番決め！

「こっちの方がいいんじゃない？」などと自分たちで考え、順番を決めていました。「さすが高学年」だと思いました。

## 運動会今年度スローガン

# 協力・笑顔・最後まで



# 全力で駆け抜けろ！



みなさんの「運動会への思い」をクラスで出し合い、代表委員会にもちより、このスローガンが決まりました。スローガンとは、「自分たちがやりたい、なっていたい姿」だと思います。それぞれの言葉について考えると…

○協力…周りのためにできることをする自分。

○笑顔…楽しむ、やって良かったと思える自分。

○最後まで…あきらめない自分。

## 全力でとりくむ

このスローガンは運動会の日だけのものではありません。運動会の練習が始まった今から心がけて欲しいと思います。

運動会の練習・本番を通して、スローガンのような自分やクラス、学校になっていたいね。

## 君ならどうする？～ごみを拾う～

みなさんはメジャーリーグで大活躍している大谷翔平選手の【ごみ拾い】の話を知っていますか？ テレビなどでよく放送される有名な話ですが、大谷選手は「気がついたごみを拾う」そうです。それは高校時代に書いた目標達成シートによるものだと言われています。

大谷選手は、大きな目標「8球団からのドラフト1位指名」を達成するために必要なこととして8つを記入していました。その中の1つが【運】であり、【運】を達成するために「あいさつ」や「ごみを拾う」などをおこなうように自分で決めていたそうです。

大谷選手は「**ごみを拾うことは幸運をつかむこと**」と考えているようです。目標を達成するために自分ができることをきちんとおこなう大谷選手はやはりすごいと思います。

私は、そんな大谷選手のごみ拾いの話を聴くたびに思い出す1人の同級生がいます。それは今から40数年前、私が小学6年生の時の話です。

その日は、教室のすみにごみがたまっていました。私はそれに気がついていました。私の友だちをはじめ、何人もの人が「ごみがある」ことに気がついていました。でも誰もそのごみを拾おうとしませんでした。私もその1人。「当番じゃねーし！」とごみを無視。そんな中、1人の女子が小さなほうきとちりとりをもって、「サササーッ」とごみを拾いました。その姿や「あんたらーが誰も拾わなから、私がやってあげたんよ」というようなことは一切言わず、「自分ができることをした」という振る舞いが見事でした。

本当に一瞬のできごとでしたが、小6だった私はその光景を見て、何か自分が恥ずかしくなったのと同時に「〇〇さん、すげえ」と思いました。その時の気持ちは今も覚えています。

### こんな時、君ならどうする？ 拾う？ 拾わない？

この同級生がごみを拾った理由は多分、「誰も拾わないから」「ごみがあるのがいやだから」などで、大谷選手がごみを拾う理由とは違うと思いますが、「ごみを拾う」というおこないから見えてくる「自分ができることをきちんとする」小6の彼女もすごい人だと思います。できていなかった、しなかった私にとっては「こんなことができる人になりたいな」と思いました。このことは私が教員になってから37年間ずっと【教え】として心の中にあります。

自分を伸ばす2学期に、みなさんも「できることをきちんとする【自分】」を目指したり、「できることをきちんとする【友だち】」を見つけたりして欲しいです。

私が中学校の教員になった頃、この同級生は小学校の先生になったと聞きました。会うことはありませんでしたが「良い先生になったんだろうな」と思うのと同時に大谷選手のように【幸運】をつかんでいてくれたらと願うばかりです。